

転居してから

市川茂子

転居してから、初めての冬を迎えることになって、色々準備しなければならない物がある。

それは引越しの時に、多くの物を不用品にしたので、いざという時になって不自由な思いをしているからだ。洋服ダンスや和ダンス、大きな箱などは捨ててしまった。気が付いたら、衣類などはその都度、押し入れから出し入れしなければならない。

座っていて手の届くところに必要な物があればそれでいいという生活など、なまけ者が夢を見ているようなもので、それは自分のことだった。

今まで使っていたコタツも大きいからと捨ててしまった。寒くなったので、あわてて買いに行つて宅配で届いたが、組立式になっているので説明書を見てもよくわからない。また頼んで組み立ててもらわなければと思つて、ひとまず部屋の隅に寄せて置いた。

コタツ布団まで捨てたので、新しいものを用意しなければと、ドタバタしている。年末には何かと物入りになるのに、色々な生活用具まで不用品にしたことなどを反省しながら過ごす。そうこうしているうちに、思い直してコタツを組み立てたりパイプハンガーも組み立て、部屋の隅にしつらえて重宝している。

何事も必要にせまられてのことである。外出も多くなり、ふだんは運動したり散歩する日課もなく過ごしているので、外に出ると足もとがふらついたり、もつれたりすることがある。

この間は天気が良かったので、バスに乗って出かけた。二、三カ所で用事をすませ、帰りのバス停近くまで来たら、バスに乗り込んでいたのが見えた。間に合いそうだと思つて小走りになって急いだら、つまずいて前のめりに転んでしまった。

すぐに起き上がれず、近くに居た方が手を貸してくれて立ち上がったが、乗るのをやめて息をととのえながら一休みして、次のバスに乗って帰った。

その夜はあまり痛みもなく静かに休んでいればと思いつながら、朝になって見たら、左手の親指のあたりが内出血のように少し色が変わって腫れていた。病院に行つてレントゲンで見てもらったら、左手の親指にひびが入っているとのこと、すぐに固定されてしまった。

年末の掃除や片付けること、仕上げなければならぬ物など、あれやこれやと脳裏をかすめる。何もかも不便になってしまって、途方に暮れる。

今、このときに、こんなことになって、遣る方なく身から出た不覚と言いながら、苦笑している。